

1・真暗な夜

中川村中川西中学校二年

M・Y

だれかに呼ばれた。  
夢のようだった。

「郷土沢が切れそうだ。」

外で M のおじさんがいつていた。  
びっくりしてとび起きた。

雨の音が急に聞こえた。

みんなの後について歩いた。

懐中電燈にてらされて

雨に穴をあけられた土が

ぼんやり見えた。

力はいらないで

足がういているようだった。

この真暗な夜が

いつまでも続くように思えた。

(三十六年)